

## 一筆水田内におけるイネ紋枯病の減収率推定法

農業研究センター 農産園芸研究所 病虫部

### 研究のねらい

近年の水稲における病害虫防除は、良食味米品種の導入により、作期混交地帯が増加し、それぞれの作期や品種に対応したきめ細かい防除指導が必要となってきた。このため、防除要否の判定が可能な簡易な発生予測技術及び被害査定法が要求されている。ここでは、紋枯病について発病程度による水稲の減収率を推定する方法について検討した。

### 研究の成果

1. 水稲を株毎に、病斑高率によって程度分けし、比重1.06以上の籾の粒厚1.8mm以上の玄米を使用して計算すると、紋枯病による減収量は、指数関数で表すことができる。
2. 得られた結果をもとに減収率を計算すると、紋枯病による一筆水田内の水稲の被害は、図1および図2のようになる。
3. この図に実際の収穫期の発病程度を適用すると、容易に水田内での減収率を知ることができる。
4. この方法により簡易に紋枯病の被害を推定できるので、紋枯病防除の合理化、防除要否の判定が可能になる。
5. 早期水稲と普通期水稲とでは、被害の現れ方が異なるので、適用に当たっては作型や地域性を考慮する。
6. 発病株率は、一筆内100株以上調査する。病斑高率は、発病株20株について式(1株内の紋枯病病斑のもっとも高いところまでの高さ÷草丈)×100で求められる。

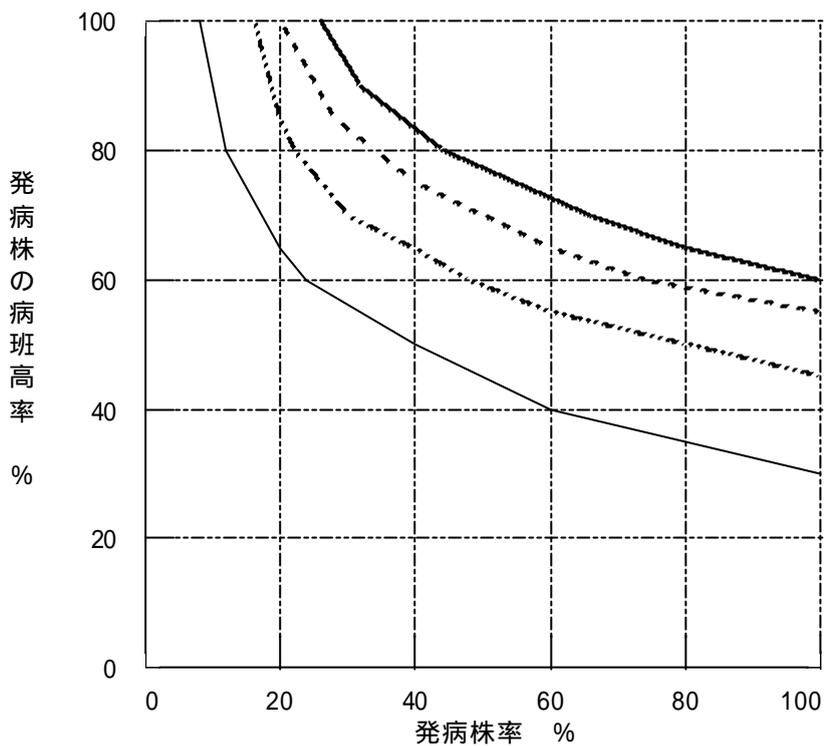


図1 早期水稲での発病株率、発病株の病班高率および減収率の関係（1990年ナツヒカリ）

— 減収率 5 %      - - - - 減収率 10 %  
 - · - · 減収率 15 %      ——— 減収率 20 %

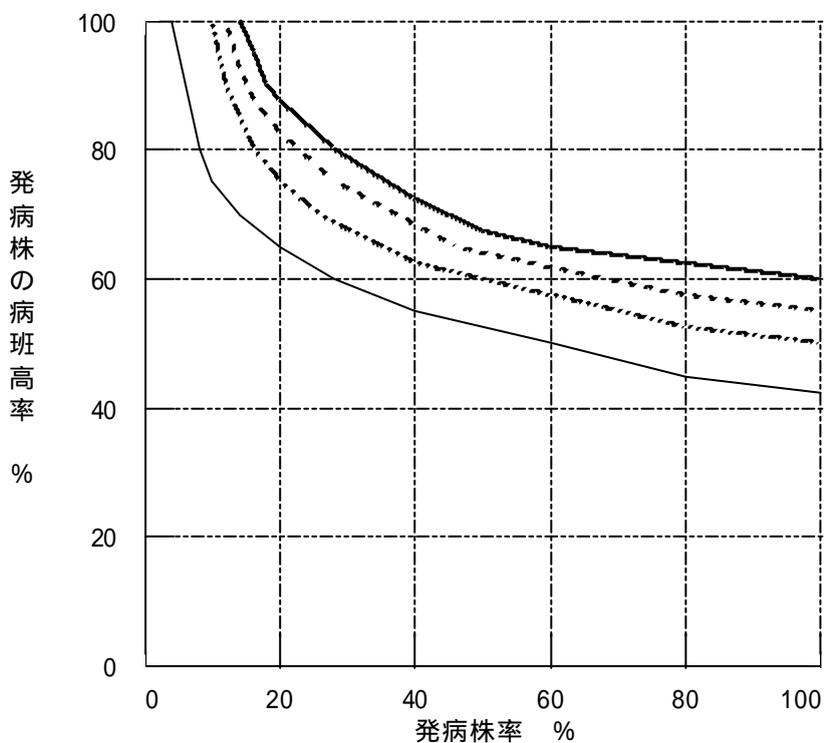


図2 普通期水稲での発病株率、発病株の病班高率および減収率の関係（1990年ユメヒカリ）

— 減収率 5 %      - - - - 減収率 10 %  
 - · - · 減収率 15 %      ——— 減収率 20 %